



『No』のサインを上手に出すこと ～意思決定～

キャリア教育において、「意思決定」は大切な柱。「意思決定」と聞くと、「好きなもの・やりたいことを選ぶ」「自分の進路を決める」など前向きな選択ばかりイメージしがちです。

しかし、実は、「嫌だ」「やりたくない」「No」を伝えることが必要な場面もあります。それは、自分の置かれている状況が今の自分に合わないことを周囲に知らせ、自分を守ることにもつなげるからです。日常の1コマを通して御紹介させていただきます。



2学期末、高等部のあるクラス・フロアでのこと。Aさん（生徒）と補欠に入ったS先生にまつわるエピソード、給食前のことでした。

この日は同じフロアの先生が手薄のため、Aさんの担任I先生が他の生徒のトイレ介助に回ることになり、「S先生、Aさんと石鹸で手を洗ってきてください」と言って足早にトイレにたちました。S先生はAさんと手洗いをしたことがありませんでしたが、「一緒に手を洗いましょう」などと、Aさんに言葉かけをして教室の流し台の方へ車椅子を押ししました。小刻みに切り返しをしても、机が邪魔をして、どうしても車椅子用の流しの前に入れません。仕方なく、手前の普通の流しの前に行き、Aさんに「ここで手を洗いましょうか？」と投げかけました。そして、言葉かけをしながら、濡れないように袖をまくってあげようとしたり、蛇口を捻って水を出してみたりしたのですが、Aさんは、怪訝そうな表情をしていて、一向に協力動作をしてくれません。そんな状況が数十秒間続いた後、もう一人の担任N先生が戻ってきました。そして、S先生に「教室の流しは彼女に合わないの、トイレの前の流しで洗っています」と教えてくれました。

この後の展開は言うまでもありませんが、Aさんはにこやかな表情かつ『協力動作全開』でS先生との初めての手洗いを無事に済ませることができました。

Aさんの『怪訝そうな表情』や『袖まくり拒否』『水を出しても手を伸ばそうとしない』これらのサインや表出が「ここで私は手を洗いません！」という『No』の意思表示だったのだと改めて感心させられました。自分に合わない状況、意にそわない場面では、Aさんのように上手に『No』を出せることが大切なのです。

社会に出ると、自分のキャパシティをこえた要求や、体調がすぐれない中での活動に直面することもあります。そんなとき、「今はできません」「それは嫌です」という言葉や声だけでなく、『曇った表情』や『手を止める動作』など、すべてが立派な「意思表示・意思決定」です。学校では児童生徒の『No』のサインも、自立に向けた一歩として受け止めていきたいと思っています。

